

英語多読の実際 ～沖縄高専における英語教育のとりくみ～

沖縄工業高等専門学校
総合科学科 新川智清

高等専門学校(College of Technology)とは・・・

1950 年代後半の日本において、目覚ましい経済活動の中、産業界から科学・技術のさらなる進歩に対応できる技術者養成の強い要望があり、1962 年に国立 10 校の高等専門学校が設立され、来年 50 周年を迎える。現在、高専は 57 校あり、国立 51 校、公立 3 校、私立 3 校である。入学定員はおよそ 1 万 1 千人である。

中学卒業生を受け入れて 5 年一貫教育により、より高度な実践的技術者を養成することを目的にした高等教育機関で、入学生は学生と呼ばれる。一般科目と専門科目を「くさび形」に配置し、1 年次より徐々に専門科目が増えていく教育課程に特徴がある。高専における標準的な総授業時間数は、高校と短大を併せた時間数を大幅に上回り、かつ大学工学部において履修する専門科目の総時間数を若干上回っている。その一方で、一般教育・教養教育にかかわる科目の授業時間数は、高校と短大を併せた時間数を若干下回る。高専の教育課程は、他の教育機関と比して、専門科目に厚く、一般科目に薄いのが特徴である。

卒業生のほぼ半数ずつが就職、進学と分かれる。就職希望者に対する求人倍率は十数倍で、常に高校・大学を大きく上回り、就職率はほぼ 100% である。進学先は、専攻科と大学 3 年次編入が主である。

高専卒業生を対象に 2 年制の専攻科が設置されている。専攻科の修了生は、大学評価・学位授与機構の審査に合格することにより、学士の学位を取得できる。専攻科終了後は、就職と大学院進学に分かれる。

沖縄高専は・・・

沖縄高専は県内産業界の強い要望を受けて、2004 年に全国で 55 番目の国立高専として開校した。設置学科は、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の 4 学科である。

2009 年に第一期生が本科を卒業し、2011 年に 27 名が専攻科を修了し、本科 1 年から専攻科 2 年まで全ての学年が在籍する高専となった。

教育の特色

- ・ 演習・実験、実習による参加型授業
- ・ 英語教育を重視し、多読・多聴等の新しい試みの実践

- ・ PBLによる学生の主体的参加型授業 (Problem Based Learning)
- ・ 産業界の協力を得たインターンシップ等の必修化
- ・ 1,2年次に異なる専門学科を混在させる混合学級
- ・ 生活態度や社会性を学ぶための教育寮 (学生寮) を置き、1,2年次は全寮制
- ・ その他：100分授業、制服なし、挨拶上手、多読図書15,000冊、図書の貸し出し数高専一

高専の英語教育

高専卒業生が専門分野において高い評価を得ている一方、高専での英語教育に対する評価は、専門教育に比べてかなり低いと言わざるを得ない。ある調査によると、高専卒業生の会社採用時の英語力はTOEIC300点台であるとされている。その理由として5年間の英語の総単位数の少なさの量的課題と、カリキュラムが系統的に編成されていないことや教材や指導法が確立されていない質的課題が指摘されている。しかしながら、産業や情報、流通等のあらゆる社会活動において国際化が急速に進み、社会や企業も技術者に対して英語運用能力を求めている。高専英語教育に関する調査委員会の調査によると、TOEIC等の外部資格試験の結果を社員採用の際に考慮している企業が全体の8割を超えている。

高専の英語教育が抱える様々な課題に対して、上述の最終報告書では、TOEIC400～420点程度を具体的な英語教育の到達目標としている。

沖縄高専における多読・多聴授業

これまでの日本の英語教育においては、「長くて難しい英文」を文法で分析し、日本語を介して理解することが英語学習の目標であった。その導入として、中学校の教科書では「短くて易しい文」を学習し、高校では「短くて難しい文」を精読する学習へと続いていった。しかし、この方法では、中学・高校の6年間に教科書等で読む英文の量はわずか数万語にすぎない。英文の理解度は、英文のインプット量に比例することを考慮すると、この数字はあまりにも少なすぎる。

これに対して電通大の酒井邦秀氏が提唱したSSS (Start with Simple Stories)方式は、非常に易しい絵本から読み始め、少しずつレベルを上げながら大量の英文 (一つの大きな目標として100万語) を読む方法である。訳読式の「短くて難しい文」を「長くて易しい文」に取り換え、「長くて難しい文」へとつなげていく。同じレベルの図書を大量に読むことによって、自然に読む力が付き、自然なレベル上げが可能になる。

実際の授業では、入学したばかりの1年生がわかる単語をつなげて物語の流れをつかみ、絵本の力によって、初見の英単語が理解できる。このことは訳読式の授業においては決してあり得ない。

この方法で楽しく読み続ける3原則は、

1. 辞書は引かず、日本語に訳さない。
2. 分からないところは飛ばす。
3. つまらなくなったらその本は後回し。

である。

沖縄高専では、1期生から多読・多聴を中心に据えて授業を展開してきた。各学年の「英語」の授業は多読が中心であり、全学年で行われる「実用英語(TOEIC)」では、多聴中心の授業を行っている。学校側の全面的な理解と、開校時の十分な予算措置にも恵まれ、開校前に約4,000冊の多読・多聴教材を揃えることができた。多読・多聴の授業を進める上で十分な数の教材であった。その後も、積極的に教材を増やしてきた。購入した教材は、英語を母国語とする子供たちのために書かれた学習用絵本や英語学習者用に単語や文法が制限された読み物、児童書およびこれらの本に付随するCDやDVDなどである。現在、図書館では1万2千冊余の多読・多聴教材が活用されている。学生は、一般図書以外に多読図書を5冊まで借りることができ、積極的に授業外(隙間)多読を勧めている。「日本の図書館2010」によると、全国の高専の中で全体の貸し出し冊数と学生への貸し出し冊数の両方とも沖縄高専と豊田高専が群を抜いて多い。全体の貸し出し冊数は豊田が、学生への貸し出し冊数は沖縄がそれぞれ3千冊多い。この数字には、多読図書の貸し出しが大きく反映されている。

1年生用の多読教材は、YL0.0~1.0程度のおよそ3,200冊を1年の講義室に近い英語教員研究の前に設置している。YLとは、SSSが独自に設定した読みやすさレベルのことである。1年生は多読導入の重要な時期であり、カートで教材を教室に持ち込み、ORT(Oxford Reading Tree)などをYL0.0から順次読ませ、学生の読書状況を観察しながら教材の入れ替えを行っている。これまでにほとんどの1年生が「英語」の授業で年間15万語程度を読んでいる。2年生以降の多読は図書館で行っているが、2クラスが同時に図書館に入るとほぼ満席状態になり、静かに読書する環境を維持することが難しくなるのが悩みである。

多聴の授業は全てCALL教室で行われている。多読教材とは別に、貸し出し禁止の約3,200冊の多聴教材が準備されている。授業の基本は多聴教材を聴き読みすることである。耳と目の両方を使う多聴の方が多読の時よりも集中して読めるという学生が多い。多聴の授業において教員間で一致して行っていることは、シャドーイングである。シャドーイングとは教材を見ずに、耳から入ってくる音を影のように追いかけて言うやり方で、この練習は、英語の音やリズムが身に付く効果的な方法である。

TOEICの結果

本校では、1年から3年まで全学生がTOEIC Bridgeを後期中間試験終了後に受験している。テストの結果は、「英語」にリーディングの点数を、「実用英語(TOEIC)」にリスニングの点数をそれぞれ20%ずつ評価に組み入れている。

本科4年から専攻科1年までは、TOEIC IP (Institutional Program)の一斉テストを実施している。TOEIC Bridgeと同様にTOEICの点数を学年末の成績の一部に加えている。4年は「実用英語(TOEIC)」の20%、5年は25%、専攻科1年と2年は「実用英語」の40%がTOEICの点数である。2010年度(H22)から学生に対する新たな意識づけとして、各学年毎に60点に換算するTOEICの到達目標点を設定した。4年生の到達目標点は350点、5年生は380点である。例えば、4年生

は TOEIC で 350 点以上得点しないと学年末評価の 20%が 0 点になってしまう。同様に、専攻科 1 年は 400 点、2 年は 420 点である。各学年の 100 点（評価の 20 点）は、4 年 420 点、5 年 450 点、専攻科 1 年 500 点、2 年 620 点である。この設定により、学生の意識が前年度に比べて大きく変わった。その結果、次の表とグラフで見るように、1 年で得点が大幅に向上した。

表 1 4 年・5 年の得点の変化と高専平均点

	4 年		5 年	
	本校	高専	本校	高専
H 2 1	3 3 8	3 3 2	3 7 2	3 6 5
H 2 2	3 8 7	3 3 6	4 1 9	3 6 3

H22 の 4 年生（4 期生）は、H21 の 4 年生（3 期生）より 49 点、高専の平均点より 51 点上がり、5 年は H21 より 47 点上がり、高専の平均点と比較してもおよそ 56 点良い。

表 2 専攻科 1 年・2 年の得点の変化と高専平均点

	専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	本校	高専	本校	高専
H 2 1	4 3 3	3 8 1	/	3 9 0
H 2 2	4 5 7	3 8 6	4 9 1	4 0 0

専攻科 1 年は前年度より 24 点良く、高専平均点より 71 点上である。専攻科 2 年（1 期生）は高専平均点と比べると 91 点良い。

これからの課題

- ・多読・多聴授業の発展的継続
- ・多読図書 of 効率的な配置
- ・多読・多聴図書の新規購入
- ・英語科 WEB の有効的な活用
- ・学生の英語学習の動機づけ
- ・学外への多読の普及：公開講座・出前授業